

# ひだご坊

No.308

2015年3月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所  
発行者 大町慶華  
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地  
☎(0577)32-0776  
\*毎月20日発行 50,000部  
三市一郡無料配布  
印刷 山都印刷株式会社

## 念じられ 照らされて

### それぞれのふくしま

木ノ下 秀俊



(略歴)  
福島県南相馬市生まれ。現地復興支援センターにて支援に携わる。現在は仙台教務所非常勤嘱託。現地災害救援本部福島事務所付き。

東京電力福島第一原子力発電所の事故から4年が経ちました。福島県内では非日常的な日々が日常として過ぎていっています。昨年は沿岸部を走る国道6号線が、今年の3月からは常磐自動車道が全線開通になりました。とはいえ、通過する車内でも放射線量は、高いところでは国道で毎時10マイクロシーベルト、高速道路でも毎時5マイクロシーベルトを超える場所があります。

期待された国や市町村による除染作業は、そのやり方や目標値もまちまちです。除染が終わったからといって生活環境から放射性物質が無くなったわけではありません。

除染や時間の経過によって空間の放射線量は下がった反面、高度に濃縮された放射性物質が生活圏の中に数多く点在していることがわかってきました。当初、政府は年間追加被曝量(自然放射線や医療放射線以外の原子力事故による一年間の被曝線量)1ミリシーベルト以下を目標に除染を行うと言っていました。原子力安全規制委員会の意見を受けて、年間20ミリシーベルト(毎時3.8マイクロシーベルト)を下回る地域の避難区域解除と住民の帰還を進めようとしています。年間20ミリシーベルトという上限は、現在原発収束作業や、除

染作業などを行っている放射線業務従事者の基準と同程度です。そんな環境に住民が無防備に居住しても安全なら、原発作業員、まして短時間視察に来るだけの大工や役人は、物々しい防護服もマスクも必要ないはず。福島県内の事故当時18歳以下約37万人を対象に行われている甲状腺検査は一巡目が終わり、現在は二巡目の検査が始まっています。一巡目の検査で、悪性・悪性疑いと診断された子どもたちは103人。50mm以下の結節や20mm以下の嚢胞を認めたA2判定の割合は47%にのぼります。二巡目の検査はまだ途中ですが、すでに一巡目の検査で異常のなかった子どもたち8人が悪性・悪性疑いと診断されています。県民健康管理調査検討会は、原発事故による健康への影響を否定していますが、不安に怯える親子たちがいることも事実です。しかし、被曝回避や放射能汚染に関して、福島県内では話題にすることさえ困難な状況が作られつつあるように感じます。危険を避けたいという当然の心配や関心を話題にできないというのは、抑圧的で不健全な状態だと思えます。南相馬市の農家は今年から賠償を打ち切られ、稲作の再開を余儀なくされていますが、一昨年試験的に栽培したお米から国の基準を超える放射性セシウムが発見されました。その原因について、昨年7月に政府と東電は、一昨年の8月に原発敷地内の作業で飛散した粉塵が飛散したためだと言い出しました。7月初めの南相馬市での説明会では、四時間で最大4兆ベクレルとの説明でしたが、7月終わりには1兆1200億ベクレルに訂正され、10月には当初東電が示した10分の1程度の1100億ベクレルに再訂正、結局原発敷地外への飛散はないということになりました。現在農地の除染が急ピッチで行われていますが、セ

シウムを吸着すると言われているゼオライトとカリウムを大量に投入し、トラクターで土壌を攪拌するだけで、地元農家の心が心配している水源地のダムや湖沼の底にある汚染土壌の除去はしないままです。そんな状況です。そんな状況です。それから家業の農業を離れる若い世代も少なくはありません。ならば、福島県内の農作物がすべて汚染されているかというところではありません。測定してみれば全く汚染されていないものもあるのです。作物の種類や場所によってそれぞれ違います。放射線量や土壌汚染についても場所によってそれぞれ違います。同じように放射能に対する人々の考え方も、世代や職業、家族構成によってそれぞれです。それが「フクシマ」という言葉で一括りにされてしまうのはとても哀しいことです。事実放射能で汚染された私たちの故郷について、安全安心を言い続ける人たちがいます。その一方で危険を言い続ける人たちがいます。白か黒かの決断をせざる議論はあたたかも踏み絵のようです。その中で、そこで生きることを選んだ人、避難を選んだ人、移住を選んだ人、帰還を選んだ人、その選びはそれぞれです。そのそれぞれの選びを互いに認め合うことから福島復興は始まるのだと思います。

内ヶ島氏は室町時代中期(一四六〇年ごろ)、將軍足利氏の命により白川郷へ入りました。向牧戸城(庄川町牧戸)を築き拠点としましたが、のちに帰雲城(白川村保木脇)を築いて本城とし、向牧戸城を支城としました。白川郷では正蓮寺と真宗門徒が勢力を強めており、内ヶ島氏にとっては脅威となりました。その頃、加賀などで一向一揆がおこりつつあったのです。一四七五(文明七年)、内ヶ島氏は正蓮寺を焼き討ちにし、正蓮寺は滅亡するかと思われました。しかし真宗の法灯は絶えることなく、蓮如上人のはからいもあり、内ヶ島氏と正蓮寺は和睦。正蓮寺は照蓮寺と名を改め再興を果たし、中野に堂宇を構えました。時は流れ、天下は秀吉のものとなりつつありました。一五八五(天正十三年)八月、当主・内ヶ島氏理が越中へ出陣している間に、金森長近が秀吉の命を受けて飛騨を平定すべく、白川郷へ攻めてきました。氏理が白川郷へ戻ってきたときには、長近が飛騨を席巻していました。氏理は降伏し、長近は内ヶ島氏の領地として白川郷を認めました。しかし十一月、未曾有の大地震が起き、帰雲城は山の崩壊に伴い、城下町ともども埋没してしまい、内ヶ島氏は滅亡しました。帰雲城があったといわれる山は現在も崩壊の跡を痛々しく残しています。その後、長近は照蓮寺を高山城下へ移らせました。そして飛騨の地に真宗が広まってくるようになるのです。



崩壊の跡を残す帰雲山

### 飛騨の真宗

## 伝承散歩⑫ 肉ヶ島氏と白川郷

宗教トラブル相談窓口(0577-3210763)

### 飛騨御坊限定 蓮の実念珠販売中!

現在、ご坊(高山別院)にて「蓮の実念珠」を販売しています。この蓮の実は、ご坊の蓮池で採れたものを使用しており、年間わずかしか採れない貴重なものです。仏教において、蓮の花は浄土に咲く花として大切にされています。泥の中にあっても泥に染まらず、綺麗な花を咲かせる蓮の花。私たちがまた、煩惱を抱えたこの身のままに、私という花を咲かせたいものですね。ご家庭のお内仏で、寺院で、阿弥陀さまに手を合わせ、お念仏される際のおともにいかがでしょうか? 念珠は一つ5,000円。少し高額ですが、高山別院への懇志としてお預かりさせていただきます。問い合わせは高山別院(0577-32-0688)まで。ご予約承ります。昨秋採れた蓮の実の念珠は残りわずかです。



私を照らす

ひかりの言葉⑦

酒井 義一

心を通わせて出会えない

私たちは、この世に生を受けてから今日まで、実に多くの人々と出会って来ました。私たちは、人間関係の中を生きている、といえます。人間関係、それはとても大切なことです。しかし、その人間関係によって私たちは様々な悩みを抱える存在です。親と子・嫁と姑・夫と妻・職場や学校での関係。出会う人はたくさんいるのですが、なかなか心を通わせて出会うことができない。相手とわかりあいたいけれども、わかりあえない。実は多くの人々が、このような問題を抱えているのではないのでしょうか。

ヤマアラシのジレンマ  
ヤマアラシという動物がいます。背中から腰のあたりに針のようない毛を持っている生き物です。普段、針は閉じていますが、身の危険を感じた時、針は自分の身を守るために、反射的に立ち現れます。そして、体を振って音を出したり、ときには敵を刺したりします。

ヤマアラシは、一人ぼっちではさみしくて生きていけません。共に生きていく仲間を求めます。何にもない時には、仲間と仲良くできます。しかし、いったん身に危険を感じてしまうと、反射的に自分を守る針があらわれてき

ます。その針で仲間を傷つけ、反対に仲間の針で自らも傷つく。そんなことを繰り返してしまうのです。

ヤマアラシは、次第に相手と距離を置きます。しかし、離れすぎるとさみしくなって近づき、近づきすぎるとまた傷つけ合って、離れる。相手との距離の取り方がよくわからずに、悩みを抱えてしまうのです。

このような状態を、ドイツのシヨーペンハウアーという哲学者は「ヤマアラシのジレンマ」と名付けたのです。

ヤマアラシは誰のこと？  
さて、ヤマアラシとは、いったい誰のことでしょうか。それは、自己防衛本能を身につけて今を生きている、私たちのことです。

私は、自分の身を守る目に見えない針を、たくさん身につけています。普段は、その針があることさえ忘れて生活しています。ところが、いったん身に危険を感じると、その針がたちどころにあらわれて身を守ります。それゆえ人は、自らの針でとなりの人を傷つけ、同時にとなりの人の針で自らも傷つくことを繰り返しているのです。

あなたへのメッセージ  
針は、針という形を取らずに、あらわれてくることがあります。たとえば、「正義」とか「相手の為」とか。私の中に、どのような針があるのか、現実の生活を通して、教えにたずねていきたいと思います。



今回は藤場芳子さんの「女と男のナムアミダブツ⑦」です。

春の彼岸会

永代経法要

3月24日(火)まで  
午後1時から勤行・法話

- 20日(金) 江馬 雅人氏
- 21日(土) 三本 昌之氏
- 22日(日) 大町慶華輪番
- 23日(月) 四衢 亮氏
- 24日(火) 小原 正憲氏

高山別院

蓮如忌法要

日時 3月25日(水)  
午後1時から

内容 お勤め、法話  
講師 熊谷 宗恵氏  
(金沢教区仰西寺)  
講題 未定

中村久子常設展示コーナー

中村久子さんは両手両脚のない人生という苦難の中にあつて、お念仏の教えに出遇われた人です。  
場所 高山別院寺宝館  
(本堂よりお上がりください)  
開館時間 午前9時  
午後3時  
入場料 無料  
関連書籍・DVD取り扱  
いあり。



おしなま



お勤めの後に読まれる文章って「体何やな?」  
それは「御文」とよばれるものです。「御文」とは本願寺八

代蓮如上人が浄土真宗の教えを伝えるために、ご門徒に宛てて書かれたお手紙です。真宗の教えがわかりやすい文章で書かれています。そのお手紙をうけとった方が法座に集まったご門徒に読み、文字が読めないご門徒も聞くことで教えにふれていかれました。話を聞くだけで忘れてしまったり、間違っただけで忘れたということもありますが、文章に残ることでも繰り返し蓮如

初まいり式



「初まいり式」は、仏さまをご縁として心豊かに歩んでほしいとの願いを込め、この世に命を授かったお子さまと一緒に参りしていただく儀式です。ご家族でぜひお参りください。

日時 4月19日(日)  
10時~11時

対象 3歳以下のお子さま  
参加費 3000円  
(記念品代込)  
会場 高山別院本堂  
申込期限 3月31日(火)  
申し込み用紙を提出ください。(別院にあります)  
問い合わせ 高山別院  
0577-32-0688  
主催 高山一組

高山2組若声会 連続公開学習会 (第二回)

日時 4月23日(木)  
午後7時半から  
会場 高山別院 御坊会館  
講師 海 法龍氏  
(東京教区長願寺)  
内容 歎異抄第五章  
聴講料 500円

おすすめの1冊

ワンコインブック

「本願」念仏「信心」  
(東本願寺出版部)



真宗の「かなめ」となる教えの言葉を題材としたひとくち法話の新シリーズ。「本願」「念仏」「信心」。大きい字、一気に読みきれ短分量でやさしく教えるにふれていただけます。  
不遠寺(総和町)住職 四衛亮氏の書き下ろし。  
お求めは高山教務所まで。